

吉田重満監督作品

— 宮澤賢治 —

映画『愁いの王』

第一部 業の花びら 第二部 装景者



宮澤賢治の生涯を描いた劇映画です。賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。」と全ての幸せを追求しています。ほとんど岩手県出身者・在住者のキャスト・スタッフで、職業俳優でなく、出演者がせりふを語る所を一切映さない等、監督独自の世界観で制作されています。全編モノクロ、日本語の字幕入りで、岩手の美しい四季が映し出され、音楽は全編にJ・S・バッハの曲が響きます。

2022年2月23日(水祝) 12時開場 / 12時30分上映開始

[途中休憩あり 16時10分終了予定]

【会場】 穂の国とよはし芸術劇場プラット アートスペース

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

(豊橋駅南口から徒歩3分・ペDESTリアンデッキで直結・駐車場は無いので公共機関をご利用ください)

【鑑賞券】 2,000円 [発売日] 2021年12月1日から

【発売所】 プラットチケットセンター窓口 ☎0532-39-3090 (10時~19時 休館日を除く)
オンライン <http://toyohashi-at.jp>

【主催・問い合わせ先】 自主オリオンの会 090-3483-8858 (菅谷)

【後援】 豊橋市・豊川市・豊橋市教育委員会・豊川市教育委員会・東海日日新聞社・東愛知新聞社

《 あらすじ 》

この映画は二部構成の上映時間3時間18分の劇映画です。

第一部「業の花びら」は2052年の近未来のシーンから始まります。2052年は日蓮(立正大師)没後770年にあたります。或る男が賢治の遺言の入った経筒を発見します。時代は1896年、賢治生誕の4日後8月31日に陸羽地震が起きて甚大な被害を及ぼしますが、映画ではこの揺れのあと白い花びらがさんさんと降って来ます。

第一部では賢治の少年時代から妹トシが亡くなった後の1923年の樺太旅行を描いています。

第二部「装景者」は著書「春と修羅」の発表から始まり、賢治の死まで映します。そして、賢治の遺言のお経を山地へ埋経し、最後は映画の始まりの2052年の経理ムベキ山のシーンに戻ります。装景者については賢治は「この国土の装景者たちは、この野の福祉のために、まさしく身をばかけねばならぬ」と記しています。

《 キャスト 》



吉田直美(宮澤賢治)



浅沼博貴(森佐一)



工藤森栄(宮澤政次郎)



小松拓也(保阪嘉内)



石館亜希子(宮澤トシ)



吉田らむ(宮澤イチ)



吉田まり(伊藤チエ)

田淵健太郎 (宮澤清六)

渡辺伸也 (関徳彌)

千枝和貴 (藤原嘉藤治)

金野吉晃 (鈴木東蔵)

遠藤明哲 (伊藤七雄)

村上宝 (菊池信一)

遠藤夏海 (高瀬露)

野坂雄 (白藤慈秀)

関口馨 (堀籠文之進)

中村太樹男 (菊池タケシゲ)

高橋正彦 (高知尾智耀)

齊藤由夫 (或る男)



《 スタッフ 》

企画・製作

グリザイユ

監督・脚本・編集

吉田重満

製作プロデューサー

吉田計子

ラインプロデューサー

浅野邦子

プロデューサー

赤塚研士郎 小原晃

PRプロデューサー

日向裕司

撮影

村田羽子

音楽

J・S・BACH

コーディネーター

吉田淳子

衣装 コーディネーター

大沢俊通

技術

渡辺炎如

コーディネーター補

齊田尚紀

助監督

大藤七瀬

ネゴシエーター

東田潔

人としての在り方を描いたこの作品は、深い愛とエネルギーに満ちている。令和の世に生きる私たちにヒントとエールを惜しみなく伝え、未来を担う人々の道しるべとなるであろう。